

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 18 日

所属	人間社会学部	職名	専任講師	氏 名	青木 佳子
研究課題	生業・文化を生かした地域づくりに関する研究				
研究キーワード	生業・文化・地域づくり		当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	14. 海の豊かさを守ろう	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	15. 陸の豊かさを守ろう	

1. 研究成果の概要

本研究は、生業や文化を基盤とした地域づくりの実践に着目し、特に漁業地域における取り組みを対象に、その効果と課題を明らかにすることを目的としている。人口減少と高齢化が深刻化する中、地域の歴史や生業に立脚した「地域性」を重視する地域づくりが各地で展開されている。

調査の結果、漁業地域においては漁師体験や漁協マルシェなど、観光と連携した活動が都市住民との交流を生み出し、関係人口の創出や移住促進につながっている事例が確認された。また、新型コロナウイルス下で進んだテレワークの普及が、ブルーツーリズムを含む地方移住への関心を高める一因となっていることも明らかとなった。

これらの知見から、生業・文化を軸とした地域づくりは、地域の再生と持続可能性の確保に資する有効な手段であることが示唆された。今後は、多様な主体の連携による発展的な展開についてもより明らかにしたい。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文(査読あり)】

なし

【著書・論文(査読なし)】

『高さのデザイン ―空間の豊かさに向き合う』、川添善行 他(共著)、担当:12章 (p.169-184)

【学会発表等】

なし

3. 主な経費

PC 購入、ソフトウェア購入、文献購入

4. その他の特筆すべき事項(表彰、研究資金の受入状況等)

【科学研究費】

- 基盤研究(C): 2023年度～2026年度、分担、課題名「海の文脈から考案するネットワーク型漁村モデルと事前復興計画の構築」(23K04184)

【その他の活動】

- 日本建築学会 住宅系研究報告会、幹事
- 日本建築学会 農村計画本委員会ルーラルネット WG、主査
- 日本建築学会 農村計画本委員会、幹事
- 日本建築学会 海際文化小委員会、幹事
- 日本建築学会 集落居住小委員会、幹事
- 和歌山県建築士会 情報出版委員会、委員

(本文は2ページ以内にまとめること)